

1. 防耐火設計マニュアルの整備

「土佐派の家」の構法、仕様を調査し、小規模住宅の一般的な防火性能評価の中心となる外壁・軒裏をはじめ、主要構造部が達成し得る防耐火性能を把握し、現行法令に適合する仕様例を整備することを目的とする。

調査の結果、「土佐派の家」では、土壁に土佐漆喰、「カマゾコ」等、地域に特有の材料が使われるほか、壁・軒裏等、住宅の構成にも、防水を目的にするとと思われる特異性があること等が判明した。これらの特質は、告示仕様防火構造より防耐火上、有利になると思われるが、地域産材料の生産工程、性能等については現地でも十分には把握されておらず、防耐火性能をはじめ、住宅構法としての各種性能を現代的枠組の中で評価するには、まず、これらの材料の生産工程、性質等を把握し、文書化しておく必要があるとの結論に至った。一方、「土佐派の家」と総称している建築も、防耐火、耐震等の観点から見ると、相当な多様性があり、防耐火性能に関するマニュアル化をはじめ、壁倍率等、耐震設計上必要なデータを得るには、まず、その整理を行う必要があると考えられた。以上から、下記調査を実施した。

- (1) 「土佐派の家」の壁・軒裏の構成・材料・仕様に関する調査
- (2) 土佐漆喰、「カマゾコ」の生産工程調査
- (3) 壁土の基本的物性調査

以上のうえ、外壁、軒裏の各種仕様について、伝統木造の防火・準耐火構造告示仕様等と比較のうえ、法令適合条件を明らかにして、防耐火設計マニュアルとして編集した。